

あ

世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 16 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の間に答えなさい。

紀元前6世紀半ば頃にイラン地域におこったアケメネス朝は古代オリエントを統一し、最盛期には西はエジプト・エーゲ海北岸から東はインダス川にいたる地域を支配下に置いた。王国の絶頂期はダレイオス1世の時代であり、^⑦ダレイオス1世は、各州にサトラップ(総督・太守)を置いて全国を統治し、同時に「王の目」・「王の耳」を巡回させ、サトラップを監察して中央集権化を図った。さらに「王の道」と呼ばれる国道を建設し、駅伝制を構築した。その後ダレイオス1世は、アケメネス朝の支配に対して を中心とするイオニア地方のギリシア人植民市が起こした反乱を鎮圧した。それをきっかけとしてペルシア戦争に突入し、アケメネス朝はギリシアに敗北した。そしてアケメネス朝は、ダレイオス3世の時代にマケドニアのアレクサンドロス大王によって滅ぼされた。

アレクサンドロス大王の没後、大王の遺領は (後継者)と呼ばれる部下の将軍たちによって争われ、イラン地域はギリシア系のセレウコス朝によって統治されたが、アム川上流のギリシア人が独立してバクトリアを建国し、さらに^⑧東方に進出して領土を拡大していった。一方、遊牧イラン人の族長であったアルサケスは、カスピ海東南部にパルティアを建国した。パルティアは、紀元前2世紀半ばにメソポタミアを併合し、 に都を置き繁栄した。

3世紀前半にパルティアを倒して建国したのが、農業に基礎を置くイラン人のササン朝である。ササン朝は、西方で国境を接するローマ帝国と軍事的衝突が生じていたが、3世紀半ば頃にシャープール1世がシリアに侵入してローマ軍を撃破し、ローマ皇帝の を捕虜としたこともあった。その後も、5世紀後半には、中央アジアの遊牧民のエフタルの侵入をうけたが、ホスロー1世の時代にトルコ系遊牧民の突厥と結んでエフタルを滅ぼし、ビザンツ帝国のユスティニアヌス1世との戦いも優位に進め、^⑨和平を結んだ。しかしホスロー1世没後は衰退し、7世紀半ばにイスラム勢力によって滅ぼされた。

これらの諸王朝では、領土内の諸民族の文化の融合が行われた。特に宗教に関して、アケメネス朝ではゾロアスター教が広く信仰され、ササン朝の時代にゾロアスター教の教典である が編集された。また3世紀には、マニによっ

てゾロアスター教や仏教・キリスト教を融合させた宗教(マニ教)がおこった。マニ教は国内では異端とされ弾圧されたが、北アフリカや中央アジアなどにひろまった。^⑤

さらにこれらの王朝では、建築・工芸が大いに発達し、たとえばササン朝で製作された銀器・ガラス器・毛織物・彩釉陶器の技術や様式は、西は地中海世界まで、東は南北朝・隋唐時代の中国を経て、飛鳥・奈良時代の日本にまで伝えられた。^⑥

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 文中の下線部⑦～⑩に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部⑦に関して、現在のイランのケルマーンシャー州にある巨大な磨崖碑に刻まれた碑文で、ダレイオス1世が自らの即位の経緯を記録したものは、何と呼ばれているか。

(イ) 下線部⑩に関して、バクトリアからギリシア人勢力が西北インドに進出してヘレニズム文化をもたらしたが、その後、西北インドに成立したクシャーナ朝のカニシカ王の時代に、ヘレニズム文化と仏教文化が融合した。そこではギリシア彫刻の技法を取り入れた仏像などの仏教美術が有名である。このような仏教美術の中心となった西北インド地域は、何と呼ばれているか。

- (ウ) 下線部㉔に関して、ユスティニアヌス1世は、トリボニアヌスらを集めて『ローマ法大全』を編集させた。『ローマ法大全』は、『勅法彙纂』・『学説彙纂』・『法学提要』・『新勅法』の4つで構成されているが、このうち『法学提要』は初学者向けの教科書という内容のものであり、ある法学者の著した同名の書籍に依拠するものであった。この法学者とは誰か。
- (エ) 下線部㉕に関して、教父アウグスティヌスは青年期にマニ教の影響を受けたとされ、アルビジョワ派などのキリスト教異端派の一部にも、マニ教の影響がみられる。1209年にアルビジョワ派に対する弾圧としてアルビジョワ十字軍が派遣され、その後ルイ9世によってアルビジョワ派は根絶されたが、このアルビジョワ十字軍を呼びかけたローマ教皇は誰か。
- (オ) 下線部㉖に関して、飛鳥・奈良時代に日本に伝わってきたものとして、法隆寺の獅子狩文錦と正倉院の漆胡瓶が有名であるが、同じく正倉院に所蔵されている、ササン朝において製作されたとされるガラス製碗は何と呼ばれているか。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

8世紀後半から、スカンディナヴィア半島およびバルト海沿岸に暮らしていたノルマン人は、海路を通じて西ヨーロッパにも進出し始めた。彼らはヴァイキングと呼ばれ、船を使って略奪や交易などを行った。10世紀初めには、ヴァイキングのうち、首長である [①] に率いられた一派が、北フランスの地に上陸し、ノルマンディー公国を建国した。現在のデンマーク・ノルウェー・スウェーデンの北欧3カ国は、このヴァイキングに民族的起源を有する国々である。北欧諸国のうちフィンランドは、ウラル語系の言語を話すフィン人が大部分を占め、上記3カ国とは民族的起源を異にする。

デンマークという国名は、ユトランド半島に居住していたノルマン人であるデー人^②に由来する。8世紀頃、ユトランド半島に国家を形成したデー人は、海を渡って現在のイギリスやアイルランドに進出した。1016年には、デー人の王である [②] がイングランドを征服した。その後、イングランドでは、アングロ＝サクソン系の王家が一時復活したが、1066年には、再び、ノルマンディー公ウィリアムが、^⑦イングランドを征服してノルマン朝を開き、自ら初代の王であるウィリアム1世となった。

ノルウェーは、9世紀末に、ノルマン人によりスカンディナヴィア半島西部に建国されたが、11世紀前半からはデンマークにより支配されるようになった。スウェーデンは、10世紀頃、同じくノルマン人によりスカンディナヴィア半島東部に建国されたが、その後徐々に勢力を広げ、13世紀にはフィンランドを支配下に置くようになった。アイスランドは、^①13世紀後半にノルウェーに併合された。14世紀末には、①デンマークの事実上の女王である [③] が主導して、⑦デンマーク・ノルウェー・スウェーデンの3カ国でカルマル同盟を結成し、⑦デンマーク王を3国共同の国王にすることが承認された。カルマル同盟は、1523年、デンマークおよびノルウェーの王としてフレデリック1世が即位した際に、スウェーデンが完全に独立したことにより解消されるまで続いた。

17世紀末になると、バルト海沿岸に支配を及ぼしていたスウェーデンで王位に就いた年少の王である [④] が、ポーランドやデンマークと結んだロシア

のピョートル1世により北方戦争を仕掛けられた。北方戦争に敗北した結果、スウェーデンはバルト海沿岸での勢力を失った。スウェーデンは、その後、ナポレオン戦争により、長らく支配下に置いていたフィンランドも失った。ノルウェーは、19世紀初めにデンマークからスウェーデンに割譲されたが、20世紀初めに独立した。デンマークは、ノルウェーを失ったのち、さらに1864年にプロイセンとオーストリアに、支配下に置いていた南部のシュレスヴィヒおよび⑤を奪われ、国土は大幅に縮小した。

デンマーク・ノルウェー・スウェーデンの北欧3カ国は、現在では、いずれも④立憲君主国として、安定した国内政治を行い、外交面でも独自の地位を確立している。

問1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問2 文中の下線部㉗～㉙に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、1066年、ノルマンディー公ウィリアムが率いた軍が上陸しイングランド軍を撃破したイギリス南部の場所はどこか。

(イ) 下線部㉘に関して、キリスト教化される以前の北欧では北欧神話と呼ばれる神話が口承されていたが、13世紀初めに、それらの神話をアイスランドの詩人スノッリが詩の教本という形でまとめることにより、後世にも伝えられることになった。この詩の教本の題名を何というか。

(ウ) 下線部㉙に関して、カルマル同盟のように、複数の独立した国々が一人の君主をいただいて同盟していることを何というか。

(エ) 下線部㊦に関して、長らくスウェーデン領だったフィンランドは、ナポレオン戦争の結果、1809年にある国に割譲された。スウェーデンからフィンランドの割譲を受けたこの国はどこか。

(オ) 下線部㊧に関して、1993年、イスラエルの占領地におけるパレスチナ人の自治を認める合意が、ノルウェーの仲介で、ワシントンで調印された。このパレスチナ人の暫定的な自治を認める合意は、ノルウェーの都市で秘密裏に交渉が進められたことで有名であり、その都市名を冠した合意名で呼ばれることもある。このノルウェーの都市はどこか。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問に答えなさい。

民族学・比較文明学の専門家であった梅棹忠夫は、かつてこのように書いた。「チベット文明は一個の巨大な文明である。チベットは中国の領域内にあるが、中国文明とはまったくことなる独自の文明である。それはラマ教すなわちチベット仏教とともに、ラサを中心^⑥に南はヒマラヤをこえて、ネパール、シッキム、ブータン、ラダックにおよび、北は ① 、甘肅からさらにモンゴル人民共和國^⑦をこえて、ソ連領のブリヤート自治共和国までおよんでいる。それは内陸アジア一帯にひろがる巨大な文明圏を形成している。もしチベット語をマスターしておれば、わたしたちは内陸アジアのどこへでも不自由なく旅行できるはずである。どこにでもチベット語を解する人たちがいるのである」(梅棹忠夫『実戦・世界言語紀行』)。この文中のモンゴル人民共和国とブリヤート自治共和国は、ソ連が消滅したあと、それぞれモンゴル国とブリヤート共和国に改称した。

中国史では、古来、チベット系と推定される諸民族も活躍していた。チベット^④高原においては、7世紀、 ② が統一国家である吐蕃を建国した。 ② はラサを中心として領土を拡張し、仏教をチベットに導入し、民族独自のチベット文字^⑤を制定し、インドや唐の文化を取り入れた。チベットに伝わった仏教は在来の民間宗教と融合し、チベット仏教が成立した。

13世紀、チベットはモンゴル帝国の侵攻を受けた。元の皇帝フビライ=ハンは、チベット仏教の高僧である ③ を国師として迎え、元の統治や文化政策に参加させた。 ③ は、モンゴル語を書写するためにチベット文字をもとに新たな文字を作成した。チベット仏教は元の保護を受けて繁栄したが、一方で僧侶の墮落や腐敗もみられた。

14世紀の末、高僧の ④ はチベット仏教を改革し、厳しい戒律の順守を主張する黄帽派(ゲルク派)を創始した。

16世紀、韃靼(タタール)の族長 ⑤ は黄帽派の教えに帰依し、その宗教的指導者にダライ=ラマという尊称^⑧を奉った。

17世紀に成立した清朝においても、チベット仏教は優遇された。たとえば、北京にあるチベット仏教の寺院である雍和宮は、雍正帝^⑨が皇子だったころの邸宅^④

を即位後に寄進したものである。その一方、雍正帝は ① 地方に出兵し、その戦後処理において旧来のチベットを分割して統治するなど、チベットへの清朝の支配も強化した。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

[語 群]

- | | |
|-------------|-------------|
| A アルタン＝ハン | B 雲南 |
| C チョイバルサン | D サキヤ＝パンディタ |
| E ガルダン | F グシ＝ハン |
| G オゴタイ＝ハン | H 四川 |
| I パンチェン＝ラマ | J ツオンカパ |
| K ティラク | L ソンツェン＝ガンボ |
| M タリム盆地 | N エセン＝ハン |
| O 泉州 | P ティソン＝デツェン |
| Q 大理 | R テンジン＝ノルゲイ |
| S トグス＝テムル | T トルキスタン |
| U パSPA(パクパ) | V 青海 |
| W モンケ＝ハン | X ヤクブ＝ベク |

問 2 文中の下線部㉗～㉙に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各問の選択肢の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、建国前後の経緯についての以下の記述のうち、誤っているのはどれか。

[選択肢]

- A 清朝時代の外モンゴルの主都は庫倫(クーロン)だったが、モンゴル人民共和国はウランバートルの地に遷都した。
- C モンゴル人民革命党は1924年にモンゴル人民共和国の成立を宣言した。
- D 外モンゴルはソ連の赤軍の援助を受けて1921年に中華民国から事実上独立した。
- E モンゴルは辛亥革命のときに独立を宣言し、チベット仏教の活仏を元首に推戴した。

(イ) 下線部㉘に関して、五胡十六国時代に「五胡」と称された「匈奴・羯・鮮卑・氐・羌」の五つの民族のうち二つがチベット系とされているが、それはどれか。

[選択肢]

- A 匈奴・羯
- B 羯・鮮卑
- C 鮮卑・氐
- D 氐・羌
- E 羌・匈奴

(ウ) 下線部㉔に関して、中国の周辺民族が作った以下の文字のうち、成立年代がもっとも新しいのはどれか。

[選択肢]

- A ハングル B 女真文字 C ウイグル文字
D モンゴル文字 E 西夏文字

(エ) 下線部㉕に関して、以下の記述のうち、誤っているのはどれか。

[選択肢]

- A 「ダライ」はモンゴル語で「大海」の意で、「ラマ」はチベット語でチベット仏教の僧を指す言葉である。
B チベット仏教の信仰では、ダライ＝ラマは活仏(転生ラマ)とされる。
C ダライ＝ラマという尊称は16世紀から始まるが、初代のダライ＝ラマは15世紀に活躍した人物とされる。
D 17世紀以降、ポタラ宮殿が歴代のダライ＝ラマの宮殿となった。
E 1989年にノーベル平和賞を受賞したのは、ダライ＝ラマ13世である。

(オ) 下線部㉖に関して、この皇帝の時代に行われなかったことはどれか。

[選択肢]

- A キャフタ条約の締結 B キリスト教の禁止
C 軍機処の設置 D 四庫全書の編纂
E 文字の獄

〔Ⅳ〕 次の文章を読み、下記の問に答えなさい。

近代において、国民国家とは、言語・文化・宗教・居住地など、何らかの属性(アイデンティティ)を共有していると考えられる人々の集団(国民)がつくりあげる国家のことであると考えられてきた。もっとも、どのような「国民意識」を共有していると考えられるのかは、それぞれの集団にゆだねられる。共通の国民意識をもった平等な市民が国家を構成するという考え方は、「すべての人が自由でかつ平等であるべきだ」という18世紀の啓蒙期自然法思想を淵源とし、アメリカの独立宣言やフランスの「人及び市民の権利宣言」といった文書に取り入れられた。国民意識の共有という国民国家の理念は、国民(nation)の自決を基礎として国家を作り上げ、政治的・経済的な強大化をはかろうとするナショナリズムの思想としてヨーロッパ各地に広まった。ナショナリズムがヨーロッパで広まった理由としては、
① によるナポレオン法典の使用にみられるように、フランス革命の成果を受け継いだという側面と、ナポレオンによる支配に対する抵抗という側面とがあった。ナポレオンによる大陸制圧は、各地に国民意識形成の追求という考え方を広める一方、侵略者フランスに対するナショナリズムをめばえさせることになったのである。さらに、一般的に19世紀にナショナリズムが必要とされた理由としては、産業革命・国家形成・諸改革・植民地獲得競争など、国民の求心力が必要な事態に直面することが多かった時代であったことがあげられる。18世紀から19世紀にかけて、ヨーロッパのナショナリズム運動において共通の属性である「国民」の内容は、イタリアにおける国家統一運動を目指して1831年に青年イタリアを結成した ② が「一民族一国家」を主張したことに見られるように、国民=民族としてとらえられるようになっていった。ギリシア・ベルギー・ポーランドなどの独立運動は、「属性の共有」を前提とし、ナショナリズムを利用して国民国家の創設を目指すものであった。ドイツでは、1834年にプロイセンを中心として成立したドイツ関税同盟による経済的統一を背景に、プロイセン首相ビスマルクが軍備を強化してオーストリアを排除したドイツ統一をすすめた。ドイツ諸邦は1871年に統一に成功して「ドイツ帝国」を名乗ったが、その実態はドイツ語共同体を基礎とする国民国家にほかならなかった。

ナショナリズムの広まりは西ヨーロッパにとどまらなかった。オスマン帝国の支配下では、19世紀に入るとセルビアとギリシアで反オスマンの蜂起が展開された。フランス革命とナポレオン戦争によってヨーロッパに拡大したナショナリズムの思想や啓蒙主義思想が、西欧の諸都市に移住した商人たちによってオスマン帝国支配下のバルカンにもたらされ、文字の読める一部知識人に「国民」という考えが意識されるようになったのである。中東世界では、「西欧近代」の脅威と自国勢力の衰退、国内諸制度の改革の必要性を感じ取って、対抗原理として、イスラームを価値の中心におく考え方や、西欧型のナショナリズム運動がみられた。前者にあたるものとして、③ のパン＝イスラム主義、後者の例としてアラブ民族主義が挙げられる。後者は、青年トルコ革命以降のトルコ民族主義に触発され、アラビア半島地域で発生したものである。

西欧国民国家の有する植民地は本国と区別され、それゆえ植民地人は国民とはみなされなかった。しかしながらラテンアメリカの植民地においても、アメリカ合衆国の独立およびフランス革命に刺激されて独立の気運が高まった。宗主国スペインがナポレオンに占領されたことも独立運動開始の契機となった。1791年に、フランス領西インド諸島のサン＝ドマング島で④ を指導者として黒人奴隷が蜂起した。その後、反乱軍はナポレオンが派遣したフランス軍を打ち破り、1804年に史上初めての黒人共和国ハイチが誕生した。他方、スペインの植民地では、本国がナポレオンに征服されたことを契機にクリオーリョが自治権の拡大を求め、やがて独立戦争に発展した。ナポレオンの大陸封鎖令の影響下で貿易を拡大させたイギリスの間接的な支援を得て、シモン＝ボリバルらの活躍により^① 1830年までにカリブ海を除くラテンアメリカの大半が独立した。

こうした近代的な「国民」観念及びナショナリズムが様々な地域へ伝播していった社会的背景としては、教育の普及による識字率の向上や出版活動の活発化により、一般大衆が国際社会の情勢を新聞などを通じて知ることが容易になったことなどが指摘できるが、交通・通信手段の発展により情報の伝達が短時間でなされるようになったこと、たとえば電話の発明やイタリアの電気技術者⑤ による無線電信の発明、海底電信ケーブルの敷設などによって、情報を通じての「世界の一体化」が進んだこともとりわけ重要である。

国民国家概念は、第一次世界大戦において大きな転換点を迎えることになる。

② が主張した、一つの民族が一つの国家を持つべきである(一民族一国家)という考え方が、「民族自決」として現実の政治において実践されることとなったのである。アメリカ大統領ウィルソンは、アメリカが参戦する理由として、オーストリア=ハンガリー帝国やオスマン帝国の下で抑圧されてきた民族の独立実現をあげていた。第一次世界大戦後には、オーストリア=ハンガリー帝国・ロシア帝国が解体した結果として、中・東欧地域に新しい民族国家が誕生した。これらの国家において一民族一国家が実現したかといえ、現実には大小さまざまな民族がそれぞれの国家に居住しており、少数民族をどのように処遇するかが国際社会、具体的には国際連盟の重要課題の一つになった。この段階において民族自決の原則は、普遍的なものとして提示されたものの、実際の適用はヨーロッパに限定され、アジア・アフリカには適用されなかった。しかしながらパリ講和会議において民族自決の原則の存在自体が認められたことは、各地での民族解放運動を活発化させることとなり、第二次世界大戦後における植民地独立へと展開していった。

すでに植民地が法的には存在しなくなった現在においても、民族自決の原則に基づく分離独立の主張への対応をめぐっては、国際社会において対立があり、国際社会は内戦や国家分裂の危機をかかえ続けている。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

[語 群]

- | | |
|----------------------|-----------------|
| A 三帝同盟 | B トゥサン＝ルヴェルチュール |
| C サパタ | D カヴール |
| E ガリバルディ | F 神聖同盟 |
| G ライン同盟 | |
| H ヴィットーリオ＝エマヌエーレ 2 世 | |
| I ペロン | J ウラービー |
| K アフガーニー | L 四国同盟 |
| M マルコーニ | N ドイツ連邦 |
| O イブン＝アブドゥル＝ワッハーブ | |
| P マデロ | Q サン＝マルティン |
| R ミドハト＝パシャ | S ベル |
| T マッツイーニ | U ムハンマド＝アリー |
| V バティスタ | W モールス |
| X 北ドイツ連邦 | |

問 2 文中の下線部㉑～㉒に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各問の選択肢の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉑に関して、アメリカ独立戦争に参加したのち、ポーランド分割に対して義勇軍をひきいて武装闘争を展開したのは誰か。

[選択肢]

- | | |
|--------------|-------------------|
| A コシュート | B コシューシコ(コシチューシコ) |
| C プガチョフ | D ラ＝ファイエット |
| E ゴムウカ(ゴムルカ) | |

(イ) 下線部④に関して、ラテンアメリカ諸国の独立に関する以下の記述のうち正しいものはどれか。

[選択肢]

- A 1819年、奴隷出身のシモン=ボリバルは大コロンビア共和国を建設した。
- B ハイチの動向を受けて、ベネズエラ・エクアドル・キューバでも黒人奴隷解放運動が起こり、19世紀前半に独立を達成した。
- C メキシコは、イダルゴの指導で独立運動が起こり、1821年に独立を達成した。
- D ラテンアメリカ諸国の独立を阻止するため、オーストリアのメッテルニヒやイギリス外相カニングらによって武力干渉が計画されたが、アメリカはモンロー宣言によって干渉に反対した。
- E ポルトガル植民地のブラジルは、1822年にブラジル共和国として独立した。

(ウ) 下線部⑤に関して、オーストリア=ハンガリー帝国とロシア帝国の解体の結果として、新たに独立した国家の組み合わせで正しいものはどれか。

[選択肢]

- A チェコスロヴァキア・ポーランド・エストニア・ハンガリー・ルーマニア
- B アルバニア・ラトヴィア・リトアニア・ハンガリー・ブルガリア
- C エストニア・リトアニア・チェコスロヴァキア・ハンガリー・セルブ=クロアート=スロヴェーン王国
- D ギリシア・チェコスロヴァキア・ルーマニア・ブルガリア・ポーランド
- E ポーランド・アルバニア・エストニア・ラトヴィア・リトアニア

(エ) 下線部㊦に関して、1919年にパン＝アフリカ会議を開催したアメリカの黒人解放運動指導者は誰か。

[選択肢]

- A キング
- B ンクルマ(エンクルマ)
- C デュボイス
- D リリウオカラニ
- E アリス＝ポール

(オ) 下線部㊦に関して、事実の発生を時系列順に正しく並べているものはどれか。

[選択肢]

- A ソ連消滅 → 東ティモールのインドネシアからの分離独立 → コソボの独立 → ボスニア＝ヘルツェゴヴィナの独立宣言 → 南スーダン共和国独立
- B 東ティモールのインドネシアからの分離独立 → ソ連消滅 → コソボの独立 → ボスニア＝ヘルツェゴヴィナの独立宣言 → 南スーダン共和国独立
- C ボスニア＝ヘルツェゴヴィナの独立宣言 → ソ連消滅 → 東ティモールのインドネシアからの分離独立 → コソボの独立 → 南スーダン共和国独立
- D 南スーダン共和国独立 → ボスニア＝ヘルツェゴヴィナの独立宣言 → ソ連消滅 → 東ティモールのインドネシアからの分離独立 → コソボの独立
- E ソ連消滅 → ボスニア＝ヘルツェゴヴィナの独立宣言 → 東ティモールのインドネシアからの分離独立 → コソボの独立 → 南スーダン共和国独立